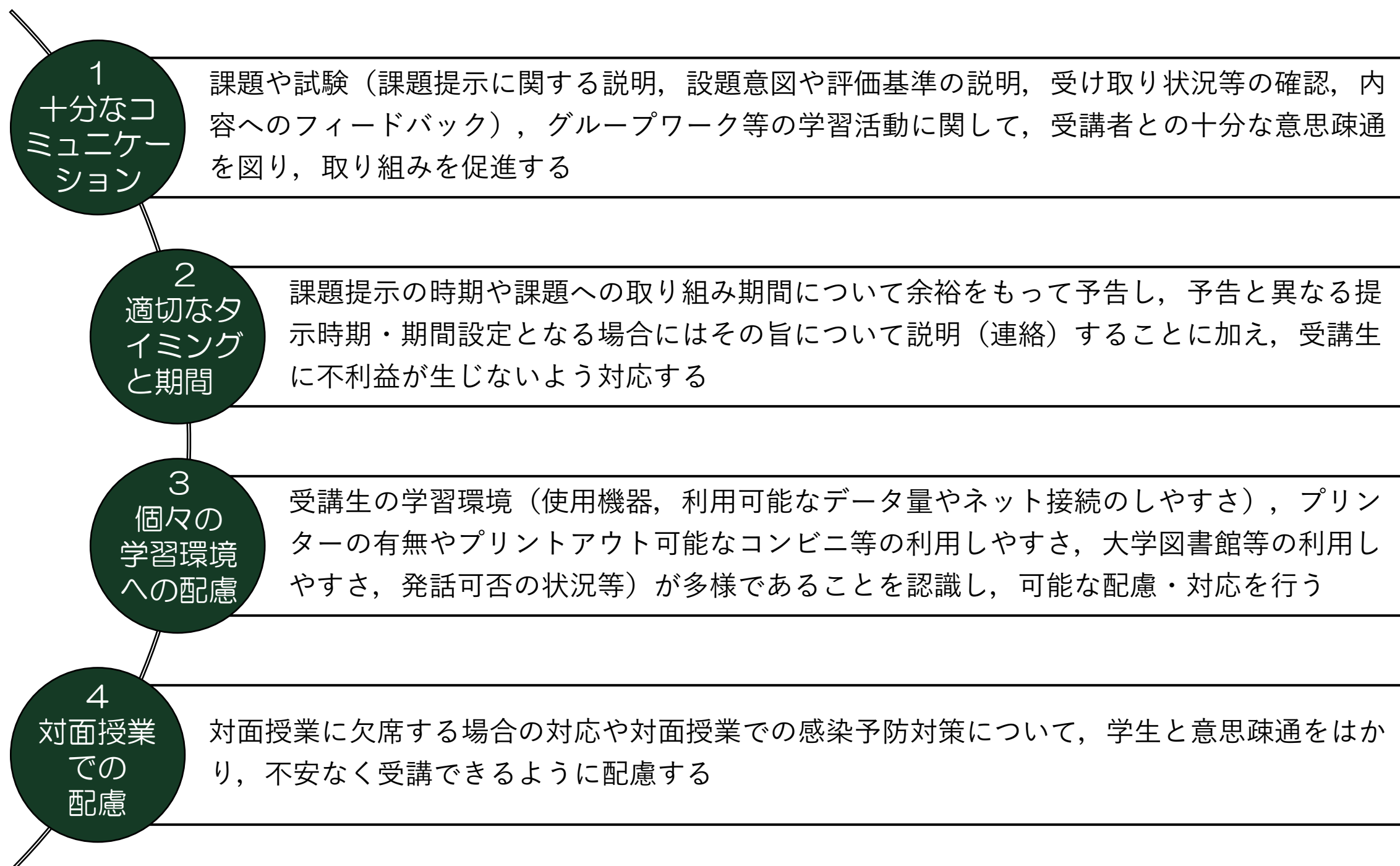


後期授業準備・実施ガイドライン（教員版）

令和3年度後期の学修活動充実にむけて



様々な悩みの解決，情報交換の場

（教員向け）非対面授業実施に関する質問・情報交換

<https://elearn.nara-edu.ac.jp/course/view.php?id=18>

（教員同士でオンラインでの授業づくりに関する質問や情報交換を行うための場です。）

「非対面授業の実施に関するマニュアル」最新版も置いてありますので，マニュアルの参照・質問もこちらからお願いします。資料等の郵送に関する窓口もこちらにあります。）



1. 十分なコミュニケーション

授業評価アンケートにおいて報告される不安の多くは、教員とのコミュニケーションに関するものです。授業での学習活動は必ず意図をもって展開されているものですが、それが学生にうまく伝わらずに不安感が生じる場合があります。

非対面の授業は、教員にとっては学生の反応、学生にとっては教員の反応が見えにくいので、対面授業よりも丁寧な説明が必要です。また、学生同士（受講生間、先輩－後輩間）のコミュニケーション機会が減少していることも、不明瞭な課題に対する対応のしにくさや負担感の増大に繋がっています。提示や配布のみで終わることなく、質疑応答の時間をとる、意図や取り組み方についての補足説明を加える、学生の取り組み状況に対してフィードバックするといった機会を設け、受講生らとの意思疎通を図り、不安軽減を図ってください。

グループワークを導入している授業では、学生同士のコミュニケーション機会が確保されることで、対面授業とかわらない学びが得られていると感じる学生も多いです。一方、グループワークに慣れない学生が進行に戸惑ったり、慣れない学生ばかりで集まってしまうことで活動が全く進行しなかったりといった事態も生じています。何についての意見を持ち寄り、どんな目標をもって話し合いを行うのか（eg. 意見を整理する、グループで1つの結論を導く）や、グループメンバーがそれぞれどのような役割を担って活動を進めるのか（eg. 進行、書記、タイムキーパー）等、意図する活動について詳細な説明を行うことで、活動の促進や学生の不安軽減を図っていただければと思います。

ポイント 1 学習活動についての説明をできる限り丁寧にする
手段の例：課題提示の際に設題意図を説明／記載する、授業と課題のキーワードを一致させる、

ポイント 2 教員－学生間のコミュニケーション機会を増やす
手段の例：質疑応答の時間（授業中）や場（オンラインフォーラム）を設ける、

ポイント 3 学生同士のコミュニケーション機会を増やし、グループワークの際には詳細な説明による活動支援を行う
手段の例：議題や目的を明示する、個々の学生の役割を明示する

2. 適切なタイミングと期間

学生たちは、授業によって提示のタイミングや提出方法の異なる様々な課題に取り組んでおり、高度な課題管理能力を求められています。タイミングや提出方法が変則的になると対応が難しくなりますので、できる限り授業当初に課題に関する説明を行い、後期中のスケジュールを見通せるようご支援をお願いします。

学生の状況等に応じて予定が変わることも当然生じうることで、課題を追加したり、提示方法や提出方法を変更することもあるかと思います。また、様々な業務に取り組むなか、予告した時間に課題提示ができないといった事態も生じ得ます。しかし、学生は、課題への取り組み期間が減ったり、普段のやり方で課題確認ができなかったりすることで、心理的、物理的な負担を感じますし、急な変更に対応ができない場合もあります。タイミングや方法の変更は、授業内での口頭説明と所定の連絡方法（メール、Teamsの投稿欄等）でテキストによる連絡をするなど、もれなく学生に伝わる方法で連絡し、また、変更による支障が無いかどうか学生にも確認をお願いします。課題提示のタイミングが遅れる場合には、提出期限もずらすなど、柔軟に対応してください。

ポイント 1 課題に応じた期間設定をし学生が課題実施のスケジュールを立てやすいよう配慮する ※
手段の例：課題提示方法とタイミングを固定する、課題提出内容・時期の一覧を配付する
※特にオンデマンド授業の場合、課題や資料の提示時期を予めかつ計画的に受講生に明示する

ポイント 2 課題提示時期を予告していない場合には、課題提示時に通知を行う
手段の例：Moodleの「アナウンスメント」を通して課題の設置についてメール配信する、
：Teamsの会議連絡（メール配信）のなかで、次の授業までの課題についても説明する

ポイント 3 予告した提示時期よりも課題提示が遅れる場合には、その旨を通知し新たな提示時期を予告しなおす

ポイント 4 学生の課題実施状況（内容の質、提出者の割合、提出時期等）から課題の実施期間や量などについて検証し、最適化を図る

3. 個々の学習環境への配慮

学生の学習環境は様々です。ネット環境に関しては、データ量の制限等で途中でオンライン授業の受講ができなくなる、通信速度の都合でカメラの起動が難しい、大容量の動画ファイルのダウンロードが難しいといったことがあります。また、機器の所有状況にもばらつきがあり、スマートフォンのみで受講している、カメラ付きPCを持っていない、プリンターがなく資料はコンビニまで出力しに出かけないといけないといった学生がいます。こういった状況については、改善を図るよう大学からもお願いしており、独力での改善が難しい場合には大学での受講やPC等貸し出しサービスの利用等を促していますが、さまざまな事情で、十分な改善ができない学生もいます。担当教員の皆さまにおかれましては、学生の学習環境の確認を行っていただき、可能な対応の説明やどうしても環境改善が難しい学生へのご配慮をいただけますよう、お願いいたします。資料の印刷に関しては、コンビニの出力サービスを利用している学生が一定数おりますが、印刷枚数が多くなったり、授業直前の資料提示となったりすることは、学生の負担感を増大させますので、最小限必要な部分の印刷指示や、教務課による資料の郵送サービスの利用、直前の資料提示となる場合の指示の工夫（授業後の印刷で良い旨の伝達など）をお願いします。

なお、令和2年度後期より対面授業と非対面授業との並行実施が開始され、大学内でオンライン授業を受講する学生の数が多くなっています。同じ教室に複数授業の受講生が集い、それぞれがマイクをオンにして発声することで、学生が相互に集中しづらい状況も生じています。教室配当がされている授業では、基本配当されている教室にて受講するように促すなど、音声に関わる環境についてもご配慮いただけますようお願いいたします。

- ポイント 1** **学生の学習環境について授業開講当初に確認を行い、環境に不備のある学生についての対指導支援、配慮事項の検討を行う。特に、環境不備による不利益が生じないように注意する。**
(購入等が難しい場合、大学のサービスにつなぐ。それでも対応が難しい場合、合理的な配慮を行う。対応に悩まれた場合は教務課または教育課程開発室にご相談ください。)

ポイント 2 **リアルタイムでのオンライン授業の場合、途中で回線が途切れるなどの通信トラブルにより授業内容の確認ができなかった学生への適切な対応を行う**
(授業録画による事後配信、個別対応による説明等が考えられます)

ポイント 3 **授業形式に対応するための過度な負担を強いない（カメラ、マイク、印刷等）**
(学生にとって無理難題となる活動を強制することは、ハラスメントにもなりかねません)

4. 対面授業での配慮

令和3年度後期は原則非対面による授業を行う方針でスタートしますが、対面による授業も申請により認められています。長く続く非対面授業のなかで、学生は対面授業の意義や効果について深く実感しており、対面授業の実施に対する要望も多くあります。しかし一方で、変異株の流行により、感染予防との両立への不安が大きくなっているという実態もあります。受講生のなかには外出を極力避けたいという考えをもっている学生や学生家族が一定数存在しており、感染状況により考えは変動します。また、学生自身や同居家族の発熱等によって、通学がかなわない状況も生じ得ます。対面授業実施の際には、出席できない状況が生じた場合について、オリエンテーションおよび随時の、受講生との丁寧なコミュニケーションと配慮をお願いします。

令和3年度前期の授業評価アンケートには、授業ごとの感染予防対策の違いに対する不安も報告されていました。授業ごとに教室環境や活動内容が異なり、受講者の振る舞いも多様ですので、同じ基準で感染予防対策を講じていても、学生の実感は異なります。感染予防に対する各授業での考え方や求められる行動についてできる限り共有し、学生の行動（マスクの着用方法、声の大きさ、対人距離等）に対しては、できる限り教員からも指導を行うようにお願いします。

- ポイント 1** **対面授業を実施する際にも、感染不安や大学の通学許可基準によって通学がかなわない学生の存在を考慮し、合理的な配慮を行う**
(授業のオンライン配信、録画によるオンデマンド受講の許可等)

ポイント 2 **非対面での授業を展開する場合は、学生に的確な説明を行い理解を得る**
(なぜこの授業を非対面で行うのかという疑問を解消する)

ポイント 3 **感染対策を徹底するとともに、感染不安に関して学生と丁寧なコミュニケーションをとる**